

西濃農林事務所の普及活動状況 令和5年9月30日現在

今月の重点活動

■ 土地利用型作物 **土地利用型営農組織の設立総会開催**

9月30日に輪之内町の加毛神社集会所において、農事組合法人下大樽営農の設立総会が行われた。

設立総会では、組合員33名が出席するなか、発起人から、議案として事業目論見書や定款が説明された後、組合員に諮られた。結果、各議案は承認され、法人が設立されることになった。

総会には、これまで、法人化を支援したアグリチャレンジ支援センター、輪之内町、JAにしみの等関係機関の職員も出席した。

来賓として、輪之内町長、農林事務所農業普及課長が出席し、祝辞を述べられた。

農林事務所では、新規設立した法人の経営安定化に向け、ブランド米「徳川将軍家御膳米」の振興や、技術支援を継続的に行っていく。



【設立総会の様子】

西濃の農業・農村を支える人材育成

■ 担い手リーダー **経営改善に向けた情報収集**

8月31日、西濃管内の担い手リーダー（指導農業士連絡協議会西南濃支部等）は、経営改善に向けた情報収集を目的に、視察研修会を、西南濃農業普及事業推進協議会と共催で開催した。当日は、指導農業士等7名の他、市町、JAにしみの、農林事務所等の関係者9名が参加した。

研修会では、「スマート農業を目指す先端技術フェアin滋賀」にて、それぞれの作目に関する技術情報を収集した。

また、有機農業を水稲で取り組んだ指導機関及び経営体（滋賀県高島市）を訪れ、これまでの有機農業を支援してきた普及活動や、生産者の現場の意見を聞き意見交換を行った。有機農業を実施する生産者の生の意見には興味を惹かれることが多く、質疑応答が盛んに行われた。

農林事務所は、この研修会が今後の経営改善の一助となるよう企画・支援を行った。



【説明を受ける様子】

安全で身近な「西濃の食」づくり

■ 大豆 **採種ほ場で『開花期』審査を実施**

9月5日、海津市内において、岐阜県種子審査員に任命された農林事務所農業普及課職員と関係機関担当者により、大豆採種ほ場の開花期審査を実施した。審査は優良種子の確保を目的に、岐阜県が定めている審査マニュアルに従い実施した。

海津市では、市内2法人により大豆の主要品種「フクユタカ」の原種ほと一般種子ほが68ha設置されている。今年度は、猛暑や雨の影響で雑草が例年より目立つものの、生育は順調であった。

今後、11月中旬に成熟期審査を実施する予定で、優良種子確保に向け栽培支援を継続していく。



【大豆ほ場審査（開花期）】

■食農教育 時小学校総合学習（稲作）及び稲刈り体験支援

9月20日に、大垣市上石津町の時小学校5・6年生の児童10名を対象に、総合学習の授業を支援した。

今年度の学習として、5月には水稻品種「龍の瞳」や稲の一年間の生育についての授業を行っており、今回は収穫から白米になるまで乾燥調製の授業を行った。

また、9月26日には、全校生徒29名を対象に、5月に田植え体験を行った田んぼで収穫体験を行った。

時小学校は、令和5年度末で、学校閉鎖となり、上石津の小中学校が統合されることが決定している。最後の体験学習となったが、児童・教員・父兄らも収穫を楽しみ、感慨深いものとなった。

農林事務所では、他地域での取り組みも含め食農教育を支援し、担い手育成や消費者への啓発を進めていく。



【収穫作業の様子】

西濃の農畜水産物のブランド展開

■みかん ドローンによる農薬散布行われる

8月25日、南濃みかん部会では、7月25日に続き2回目のドローンによる農薬散布を行った。

ドローンによる農薬散布は、傾斜地が多いみかん園の防除作業の省力化が目的で、今年が初めての取り組みである。

ドローンによる農薬散布の作業時間は、準備を含めて10a当たり30分もかからないことから、慣行の動噴による手散布（60分）に比べ非常に省力となる。

ただし、樹上からの高濃度少量散布のため、葉裏への農薬の付着が少ないという課題があり、普及にあたっては防除効果の実証が必要である。また、委託料と労力軽減の効果も検討して、導入に向けては慎重な判断が必要となってくる。

果樹栽培では、ドローンによる農薬散布はかんきつ類で最も進んでいる。農林事務所では、南濃みかん産地において、今後、産地を維持・発展させるために、課題解決を図りドローンによる農薬散布への取り組みを推進していく。



【ドローンによる農薬散布の様子】

地域資源を活かした農村づくり

■花き FBC地方審査

9月6日、西濃・揖斐管内の4つの小学校を対象に、FBC（フラワー・ブラスター・コンクール）の地方審査が行われた。審査は、農林事務所（西濃・揖斐）の他、西濃教育事務所、中日新聞社の4名で実施した。

どの学校の花壇も非常に良い状態で審査を迎えており、素晴らしい出来であったが、マリーゴールドの花着きが悪いなど、高温による影響も一部に見られた。

審査の結果、4校とも中央審査に推薦することとなり、西濃管内の中央審査は9月20日、21日にかけて実施された（審査結果は、10月中旬に発表予定）。

今後も学校花壇の取り組みが継続できるよう、農林事務所として支援を継続していく。



【養北小学校の花壇の様子】